

(5) アルコール

重点分野別 目標	アルコールが健康に及ぼす 影響について学び、節度ある 適度な飲酒に心がけましょう。	総合評価
		B

総合評価の内容および今後の推進方策

未成年者の飲酒については、やや改善がみられました。また、適正飲酒については、知識として理解している人の割合はやや改善されたものの、大量飲酒者の割合は改善がみられませんでした。

お酒は日常生活の中に身近にあり、その摂取の仕方によっては、心身への影響が大きいことから、その功罪を正しく理解し、飲酒のコントロールができるよう知識の普及につとめます。

個別目標	【行動目標】
	1 未成年者の飲酒をなくしましょう。……………57
	2 「節度ある適度な飲酒」の知識を深めましょう。……………58

アルコール	行動目標 1
-------	--------

目標

未成年者の飲酒をなくしましょう。

ライフステージ：幼年期、少年期、青年期

指標の推移と中間評価

項目	基準値	中間値	目標値	中間評価
未成年者の飲酒経験 (15歳以下の飲酒経験がある子ども)	19.6%	17.6%	0%	△

基準値：平成14年度市民健康意識調査

中間値：平成18年度市民健康意識調査(関連資料:P.90)

15歳以下の飲酒経験がある子どもの割合は低下したものの、依然として高い状態にあります。

課題と今後の方向

未成年者の飲酒は、法律により禁止されており、成長期に飲酒することは、心身の発達に悪影響を与えます。また、大人に比べて依存がより早期に形成されます。

このため、今後も「アルコールの知識普及事業」により、各種学校での行事等を利用したり、パンフレットを作成するなど、アルコールの害に関する様々な情報提供を行い、家庭や地域での未成年者への飲酒防止の啓発につとめます。

前期における取組 (平成15～18年度)

- 健康教育
- アルコールの知識普及事業

後期における主な取組 (平成19～22年度)

- 健康教育
- アルコールの知識普及事業

※取組の内容については、72～74ページに掲載

アルコール

行動目標 2

目標

「節度ある適度な飲酒」の知識を
深めましょう。

ライフステージ：青年期、壮年期、中年期、高年期

指標の推移と中間評価

項目		基準値	中間値	目標値	中間評価
飲酒習慣のある人でお酒が適量であれば 体によいことを知っている人の割合		85.7%	86.7%	100%	△
多量飲酒者	男性	12.5%	14.0%	10%以下	×

上段 基準値：平成14年度市民健康意識調査、中間値：平成18年度市民健康意識調査（関連資料：111）

下段 基準値：平成13年県民栄養調査【秋田市分】、

中間値：平成18年県民健康・栄養調査【秋田市分】（関連資料：P.120）

お酒が適量であれば、体によいことを知っている人の割合は上昇し、改善がみられたものの、多量飲酒者の割合は上昇しており、改善がみられませんでした。

※多量飲酒者 平均1日当たり日本酒に換算して3合（純アルコールで約60g）以上消費する者

課題と今後の方向

お酒は、適量であれば体にもよい影響を与えます。しかし、過度の飲酒は、急性アルコール中毒やアルコール依存症だけでなく、肝疾患、脳卒中、心臓病、妊娠に関連した異常につながるなど、アルコールの悪影響が指摘されている病気が多くあります。

このため、アルコールの害から身を守れるよう、引き続き「アルコールの知識普及事業」や「アディクション問題学習会」を通じて、アルコールが健康に及ぼす影響や、節度ある飲酒などの正しい知識の普及につとめます。

アディクションとは…

嗜癖しへまを意味し、自分でやめようとしてもやめられない行動プロセスや人間関係などを含みます。代表的な例としては、アルコールや薬物依存、摂食障害、ギャンブル依存症などがあります。

前期における取組
(平成15～18年度)

- 健康教育
- アルコールの知識普及事業

後期における主な取組(予定)
(平成19～22年度)

- 健康教育
- アルコールの知識普及事業

※取組の内容については、72～74ページに掲載